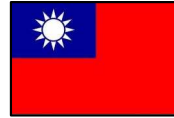


「英語で教室から世界とつながる」プラットフォーム事業

"Opening a New World from the Classroom" Project, Hiroshima



Kuai Ji Junior High School



府中町立府中中学校

交流授業

第1回交流授業



台湾の生徒の自己紹介



府中中学校の生徒の自己紹介
+ 日本紹介

第2回交流授業



台湾についてのプレゼンテーション
+ 日本についての質問



お互いが聞きたいことを
英語でやり取り

学 年：第3学年

単 元 名：Be a Bridge between Japan and Taiwan

ね ら い：自分のこと、日本のおすすめのものや人について、紹介したり、思いや理由などを伝え合ったりすることができる。

活動内容：

①台湾の生徒による自己紹介（グループ）

海外校の生徒が自分自身について紹介（年齢・兄弟姉妹の人数・好きなもの等）した。iPadを使い、写真等を提示する生徒もいた。

②府中中学校の生徒による自己紹介・日本の紹介（グループ）

本校の生徒が自己紹介を行った。次に、単元を通して作成した「紹介レポート」を応用し、「日本の誇れるもの」を紹介した。

《接続方法：Google Meet》

大切にしたこと

- ・お互いの文化を尊重できるように、国と国がかかわることの大切さを事前に指導した。
- ・日本に興味を持ってもらえるように、相手意識をもってプレゼンテーションをするよう指導した。
- ・トラブルを軽減するために、情報担当者と綿密に打ち合わせを行ったことで、緊急時の対応を確認でき、実際の場面でも対応することができた。

活動内容：

①台湾の生徒による台湾の紹介・府中中学校の生徒からの質問（グループ）

海外校の生徒が台湾のおすすめの場所や食べ物について短いプレゼンテーションを行った後、本校の生徒に聞きたいことを質問した。

②QandA（グループ）

事前に、互いが聞きたいことについて両校で共有し、質問内容をカテゴリー別に分け、それぞれの内容について会話をを行った。

カテゴリー：School / Culture / Sports / Country / About You

《接続方法：Google Meet》

生徒の声

- ・話すときに相手の目を見ることができた。実際に目の前にはいなかったけれど、原稿ばかり見るのではなく、顔を上げて話すことを意識した。
- ・海外との交流は表現できないくらい、計り知れないくらい素晴らしいものだと思う。
- ・国境を越えた国の人と自分のことについて伝え合えたことで、日本のおすすめについて、英語を使って語れる力が付いた。
- ・外国の人に対して日本で有名なものを説明することができるようになった。

交流を終えて

先生の声

- ・生徒にとってとてもよい経験になった。リモートのため音声や時差等調整が難しいこともあったが、生徒は楽しみながら英語を使って活動することができた。
- ・プレゼンテーションといった一方通行のアウトプットよりも、Q and A方式の方が生徒の話す力、聞く力、即興力が身に付くことが分かった。相互のインタラクションにより、生徒の達成感、充実感もあるように見えた。
- ・2回の交流授業を行う中で感じたことは、ゴールイメージの共有の難しさである。教員間のゴールイメージが異なっていると、取組の質に差異が生じてしまうと感じた。